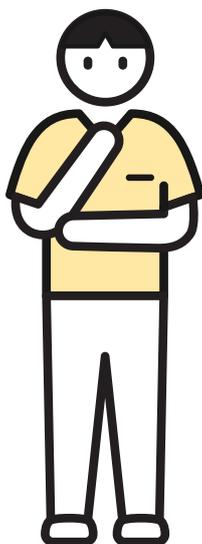


看護師養成所2年課程(通信制)教員研修ツール

実習の学習効果を高める 記録用紙・ワークシート 使用ガイド



【目次】

1 実習の効果を高める面接授業・記録用紙・ワークシート」の作成の背景と活用について

2 記録用紙の種類

3 見学実習前の面接授業における記録用紙の使用手順

4 記録用紙の記入例と学習支援のポイント（詳細は別添の動画を参照）

資料① 記録用紙1 看護師が行う看護実践場面についてのレポート

資料② 記録用紙2 対象者を理解するためのワークシート

資料③ 記録用紙3 看護実践場面のアセスメントシート

資料④ 記録用紙1 看護師が行う看護実践場面についてのレポート（母性看護）

資料⑤ 記録用紙2 対象者を理解するためのワークシート（母性看護）

資料⑥ 記録用紙3 看護実践場面のアセスメントシート（母性看護）

資料⑦ 記録用紙1 面接授業用記載例（成人・老年看護学）

資料⑧ 記録用紙2 面接授業用記載例（成人・老年看護学）

資料⑨ 記録用紙3 面接授業用記載例（成人・老年看護学）

【別添】動画「5 実習の学習効果を高める記録用紙(ワークシート)の活用について」

1. 記録用紙についての説明 1:16 – 17:08

2. 見学実習で使用する記録用紙の活用例 17:09 – 28:03

記録用紙の記入例と学習支援のポイント

記録用紙1 看護師が行う看護実践場面についてのレポート 18:35 – 20:12

記録用紙2 対象者を理解するためのワークシート 20:13 – 22:42

記録用紙3 看護実践場面のアセスメントシート 22:43 – 28:03

3. 記録用紙の活用例 28:04 – 37:35

記録用紙1～3の面接授業での活用 28:04 – 32:55

DVDをもとに作成した記録用紙の活用 32:56 – 37:35

1 「実習の学習効果を高める記録用紙・ワークシート」の作成の背景と活用について

看護師養成所2年課程(通信制)(以下、2年課程(通信制)とする)における臨地実習は、対面での学習を基本とする教育機関で行う実習とは異なり、「紙上事例演習」「病院見学実習」「面接授業」で構成されています。これは、2年課程通信制に通う学生が、「十分な実技能力を有しているものと考えられる」ことを前提に、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則(以下「指定規則」とする)」で規定されています。

准看護師から看護師になるための学習の過程においては「医師・歯科医師や看護師の指示に基づく看護」から、「自らの判断による科学的根拠に基づく看護」を提供するために必要な知識・技術を身につける必要があります。ここでいう技術とは、手先の器用さといったことではなく、論理的思考や批判的思考(クリティカルシンキング)、問題解決のために必要な力を意味しています。准看護師としての知識や経験と2年課程(通信制)で学んだ知識を基盤として、知識・技術・態度の統合を図りつつ、実践に適用する能力を育成するために、大切な科目です。

一方で、准看護師として就業した期間や内容が異なる学生が、多くの病院・施設で様々な見学実習を行った経験を統合し、学習目標を達成することを効果的に支援するには工夫が必要です。そこで、2年課程(通信制)における臨地実習での学生の学びを効果的に支援することを目的に、3種類の記録用紙・ワークシートを作成し、それを活用した臨地実習科目の実施方法を考案しました。学生が自らの経験を省察することを通して、学習を積み重ねることができるよう、紙上事例演習・見学実習・面接授業の連続性を意識しています。

作成の過程では、2年課程(通信制)での教育経験が豊富な教員、教育機関の協力を得ました。どのような順序や日程、体制で「紙上事例演習」「病院見学実習」「面接授業」を行うかなどは、教育機関ごとに違いがあることがわかっています。また、既に自校の学生や教育体制にあった記録用紙を含む実習方法が確立している教育機関があることもわかっています。そこで、臨地実習終了時の到達目標を次の1～4とすることを共通の認識としました。また、作成した教材の活用を支援するため、本紙の他に説明動画も作成しました。

動画を視聴しながら教育機関ごとに内容をみて、アレンジしたり、不足している部分を追加するなどしてご活用ください。

【実習終了時の到達目標】

1. 看護師が看護過程に基づいて行う看護実践を見学し、その実践の目的を考えることができる
2. 行われた実践の内容と結果を評価することができる(必要時計画を修正することができる)
3. 学生自身の実習経験、学習経験を省察し、次に自分が同じような出来事に遭遇した時に、どのように行動するかを考えることができる
4. 記録した内容を基に、対象者をさらに理解するために必要な情報は何か、どのようにすればその情報を得ることができるのかを考えることができる

2 記録用紙の種類

記録用紙は下記の通り3種類あります。教育機関や科目(看護の専門領域)ごとの学習内容や学習目標に合わせて自由に加筆・修正してください。

- 1) 記録用紙1 看護師が行う看護実践場面についてのレポート
- 2) 記録用紙2 対象者を理解するためのワークシート
- 3) 記録用紙3 看護実践場面のアセスメントシート

見学実習において看護師がどのような実践を(記録用紙1)、どのような対象者に対して(記録用紙2)、なぜ行ったのか、どうなったのか(記録用紙3)を理解するために必要な視点や、気づくポイントを学生に提供し、看護師らしい思考へとガイドする項目で構成されています。当然のことながら学生や実習の状況等によって、記録するための情報が得られない場合もあります。実習において、項目の全てを埋めることは必須ではありません。学生には記録すること自体が目的にならないよう留意するよう伝える必要があります。

見学実習前のオリエンテーションで説明の機会を設けたり、模擬的に使ってみる機会があると、見学実習中の学習経験の充実につながります(詳細は次章)。

1) 記録用紙1 看護師が行う看護実践場面についてのレポート

学生が見学実習で観察した内容を、看護師の言動と患者の言動に分けて記載します。

I. 見学した看護実践場面

学生が見学した、「看護師が患者に看護を提供する場面」を切り取って記載する。

- 看護師が患者の呼吸状態を確認する場面
- 看護師が患者の離床を促し、歩行の介助を行う場面 など

II. 援助の目的(看護師に聞いた援助の目的)

その場面で看護師がなぜそれを行ったか、実践の理由を看護師に確認して記載する。

- 無気肺の有無を確認するため(〇〇術後〇日目)
- 入院により筋力が低下し、歩行が困難になっている。退院に向けてADLを維持・拡大するため など

病院見学実習 看護師が行う看護実践場面についてのレポート		記録用紙1
【 】看護学(論)		
学籍番号	学生氏名	
I. 見学した看護実践場面		
II. 援助の目的(看護師に聞いた援助の目的)		
III. 看護師のかかわり <small>(看護師が対象者とどうにかかわっているか、言動や表情に注意し事実を具体的に記入する。学生自身の考えやアセスメントしたことは記入しない。)</small>	IV. 対象者の様子 <small>(援助を受けた対象者にどのような様子がみられたか、言動や表情に注意し事実を具体的に記入する。反応がない場合は反応がないことも記入する。学生自身の考えやアセスメントは記入しない。)</small>	
V. 場面の見学を通して気づいたこと、疑問に思ったこと、考えたこと <small>(場面を通して、気づいたこと、考えたことなどを自由に記載する。)</small>		
この記録用紙の意図 ・見学する視点が、看護師や患者に偏らないように2段(III、IV)の構成にしました。 ・見学するときの視点の注意事項を別途記載しています。 ・場面の見学を通して気づいたこととして学生は第一印象を記録し、リフレクションに活用します。 ・記録内容に対する学生への教育については別途記載しています。		

Ⅲ. 看護師のかかわり

看護師がどのように対象者とかかわっているか、看護師の言動や表情に注意し、事実を具体的に記載する。ここでは看護師の実践そのものに注目し、客観的な事実のみを記載する。学生自身の考えやアセスメントした内容は含まない。

- 看護師は「胸の音を聞かせてください」と言いながら、聴診器のチェストピースを自分の手のひらで温めてから、患者の前胸部に当て、その後背側も聴取した。「吸ってください、吐いてください」と言いながら、患者の表情や呼吸の様子を見ていた。
- 看護師の発言と行動
 「今日のリハビリではどのくらい歩きましたか」
 「昨日よりたくさん歩きましたね、よかったです。病棟でももう少し歩けそうですか」
 「まずはそこのトイレまで歩いてみませんか、私がご一緒します」
 (行動) ベッド横で患者と目線を合わせて話していた、リハビリの記録を電子カルテで確認していた など

Ⅳ. 対象者の様子

対象者の様子に注目し、言動や表情を具体的に記載する。Ⅲの看護師のかかわりと対比することで、相互作用を確認できる。

- 看護師の声に合わせてゆっくり呼吸をしていた
- もう少し歩いてみませんかと言われて不安そうな表情だった
- 「トイレまで」と看護師にと言われて、歩いたら、「これからは歩いてトイレに行けるかしら」と明るい声で話された など

記録用紙 1

病院見学実習 看護師が行う看護実践場面についてのレポート

【 】看護学(論) 学籍番号 学生氏名

I. 見学した看護実践場面	
II. 援助の目的(看護師に聞いた援助の目的)	
III. 看護師のかかわり <small>(看護師が対象者とのようにかかわっているか、言動や表情に注意し事実を具体的に記入する。学生自身の考えやアセスメントしたことは記入しない。)</small>	IV. 対象者の様子 <small>(援助を受けた対象者にどのような様子がみられたか。言動や表情に注意し事実を具体的に記入する。反応がない場合は反応がないことも記入する。学生自身の考えやアセスメントは記入しない。)</small>
V. 場面の見学を通して気づいたこと、疑問に思ったこと、考えたこと <small>(場面を通して、気づいたこと、考えたことなどを自由に記載する。)</small>	

この記録用紙の意図

- 見学する視点が、看護師や患者に偏らないように2段(Ⅲ、Ⅳ)の構成にしました。
- 見学するときの視点の注意事項を別途記載しています。
- 場面の見学を通して気づいたこととして学生は第一印象を記録し、リフレクションに活用します。
- 記録内容に対する学生への教育については別途記載しています。

V. 場面の見学を通して気づいたこと、疑問に思ったこと、考えたこと

場面の見学を通して気づいたことや、疑問に思ったこと、考えたことなどを自由に記載する。面接授業の際の省察にも活用する。

- 看護師によると患者は喫煙歴も長く高齢のため、術後の無気肺に注意しているとのこと。
- 看護師はリハビリでの歩行記録を確認してから患者に提案していた。患者が不安そうな表情をしていたのを見て、一緒に行くということでADL拡大を支援していた、患者はトイレに歩いて行かれるかもしれないと知って、嬉しそうだった(今はポータブル)。 など

2) 記録用紙2 対象者を理解するためのワークシート

見学した看護実践の場面（記録用紙1の場面）の対象者について、どのような人かを知るために記載します。対象者に一人について、1枚記載します。

見学実習先によって、患者情報の提供の仕方が異なると思います。学生が観察してわかることや、看護師の発言や看護師に確認することでわかることを中心に、項目を設定しています。実習目標、実習の状況によって、アレンジしてください。

年齢 / 性別 / 病名 / 既往歴

看護の方向性
 看護の方針や、看護問題、その問題への対応方法など。担当の看護師に質問して確認する。

記録用紙2

病院見学実習 対象者を理解するためのワークシート

【 】看護学（論）

学籍番号	学生氏名
年齢	性別 男 女
病名/既往歴/現病歴	
看護の方向性（看護の方針、看護目標、看護問題とその問題への対応方法など） ※看護師に質問して確認する	
日常生活行動の状況（食事、排泄、清潔、活動、睡眠など）	
認知機能や理解力	
家族や社会との関わり（家族関係、社会における役割、サポート体制、社会資源など）	
その他	

複数の患者や利用者を担当したときには、対象者1人につき1枚このシートに記入してください。

- 日常生活行動の状況（食事、排泄、清潔、活動、睡眠など）
- 認知機能や理解力
- 家族や社会とのかかわり（家族関係、社会における役割、サポート体制、社会資源など）
- その他

対象者の状況の観察や発言、看護師と対象者とのやりとり、看護師への質問、他の医療職や家族などの発言、カルテなど様々な情報源から、対象者を理解するための情報を得て記載する。

病院見学実習 看護実践場面のアセスメントシート

〔 〕 看護学（論）

学籍番号

学生氏名

看護実践の目的（この看護実践・援助はなぜ必要だったとあなたは考えるか。本来この援助はどのような目的で行われるのか。）

対象への看護実践の結果（対象者の反応はどうだったかをもちに、ケアが効果的だったかを考える。）

行った看護実践・援助の内容と結果のアセスメント（援助の妥当性 / 対象者にとって効果的だったのか）

1. 対象者の準備状況（行われることについて理解していたか / 参加する意思があったか / 適切なタイミングであったか / 治療や療養の妨げになっていないか / 実施するうえで障害になる要因はないか）
2. 看護実践の方法（対象者の状況に応じた方法で行われたか / 対象者の意思は尊重されたか / 安全・安楽な方法で行われたか / 対象者の自立を妨げていないか）
3. コミュニケーション（言語的・非言語的コミュニケーションのどちらも対象者に合った方法で意思疎通が行われたか）
4. 対象者の強みの活用（対象者の持っている力、家族や友人などの人的資源や社会的資源は活用されたか）
5. その他（対象者の倫理や尊厳は守られたか / プライバシーは確保されたか / 所要時間 / 人的・物的資源の活用など）

上記のアセスメントをもとに援助場面を振り返り、あなたならどのように行動するか記載してください。（見直しが必要な場合は、どのように修正するか、また、なぜそう考えたのか）

援助のアセスメントをして、必要だと気付いた情報、また自分に不足している知識があれば記載してください。

1～5のアセスメントを振り返り、自分ならどのように行動するか、見直す点があるとしたらどのように修正するのか、なぜそう考えるのかを記載する。

アセスメントをして、さらに必要だと思った情報や、自分に不足している知識などに気がいたら記載する。学生が、実践の省察を通して学習を続ける力を身につけることを支援できる。

3 見学実習前の面接授業における記録用紙の使用手順

見学実習での学びを効果的に支援するため、見学実習前の面接授業や、実習オリエンテーション等で、記録用紙1～3を実際に使用していただくことを提案します。その際の方法として、下記の手順が考えられます。

1) 記録用紙1～3を学生に配布する

2) DVD等で、看護師が行う看護実践場面についての動画を視聴する

今回は下記の動画を使用した例を紹介します。

臨床判断気づくトレーニング 第2巻 臨地実習編
CHAPTER3 28:00～31:00の3分間
東京サウンドプロダクション ナーシングチャンネル
三浦友理子、奥裕美、松谷美和子監修 (2018)
<https://nur-ch.com/kiso-kango/kiduku/>

事例の内容

- 糖尿病で入院中の患者のベッドサイドに看護師が来て会話をする場面
(看護学生を看護師と置き換えて視聴してもらう)

[患者情報]

年齢 60代後半	性別 女性
病名 / 既往歴 / 現病歴 6年前より、II型糖尿病、経口薬で血糖コントロールを行っていた。 今年4月初旬から血糖コントロール不良。空腹時血糖値180mg/dL台 75g経口糖負荷試験 2時間値400mg/dL、HbA1c9.5%。精密検査のため入院。	
看護の方向性 (例えば、看護の方針、看護目標、看護問題など) インスリン療法導入のため入院。自分でインスリン注射を行い血糖のコントロールができるようになる。	

- 患者のオーバーベッドテーブルの上には、血糖測定器が入った「箱」と、患者の家族が置いて行った患者宛の書類がある
- 患者は書類の文字が読みにくく、看護師に代読を依頼する
- 署名が必要な書類であることがわかり、署名する (少し書きにくそうな様子である)
- 次に患者はテーブル上の「箱」に気づき、看護師が血糖値を測る機械であることを伝えると、昨日の看護師が「退院後も注射をしなくてはならない」と言っていたことを思い出し、今後の治療に関する思いや考えなどを発言する

[この時間の受け持ち看護師の記録]

時間	看護記録
8-16	本日、自己血糖測定方法について実演しながら説明した。 S:「はい、よくわかりました。」 O:血糖測定方法の説明に対して、うなずきながら話を聞いている。 特に質問はなし。 A:初回説明時の受け入れは良好。 自己血糖測定の導入は可能と判断できる。 P:明日から看護師立会いのもと、自己血糖測定を開始し、退院までに手技を確立する。

【17日日勤の方へ】

16日、パンフレットを使用して口頭で説明しながら実施しました。よく理解できていましたので、17日昼より看護師見守りでご本人に実施してもらってください。
パンフレットを渡してあるので、時間の空いた時に読み直してもらうようお願いしています。

動画を見ることで、見学実習で目にする場面を模擬的に事前に体験することができ、この動画を見ながら記録用紙に記載してみることで、見学の際の視点も事前に学ぶことができます。見学実習時の目標が明確になり、学生が貴重な臨床での経験から効果的に学習することを支援します。

この動画を見たことを想定して、記録用紙の記載例(資料⑦～⑨)を作っています。学生への説明の際に使ってください。また、各用紙における学習支援のポイントを次章にまとめています。

- 3) 記録用紙1を記載する
- 4) 記録用紙1の内容を基に、記録用紙2を記載する
- 5) 記録用紙3を記載する
- 6) 記録用紙1～3の記載例(資料⑦～⑨)を提示し説明する

4 記録用紙の記入例と学習支援のポイント

1) 記録用紙1 看護師が行う看護実践場面についてのレポート

- 看護師と対象者が直接のやり取りをする場面を見学し、両者の様子について観察した内容を記載する記録用紙です。
- 看護師と患者の言動について、できるだけ見聞きしたままを記載します。
- 発言の一語一句、行動の全てを書き出す必要はありません。
- 双方の相互作用を対比して確認しやすくするために、看護師の言動と患者の言動を分けて書くようになっています。

2) 記録用紙2 対象者を理解するためのワークシート

- 対象者について理解するために必要な客観的情報（事実）を記入するための用紙です。
- 学生自身の解釈はここには含みません。
- 対象者を理解するにはどのような情報が必要かを考えながら記載します。
- 情報はカルテからだけでなく、患者や指導看護師との会話、言動の観察の中から集めます。
- 情報をたくさん集めて、記録を埋めることが目的ではないことを学生に伝えてください。

3) 記録用紙3 看護実践場面のアセスメントシート

- 見学した実践・援助の場面をアセスメント（評価）し、見学した実践の意味を考え、学生が持っているこれまでの知識や経験と統合し、さらにもっとよくするためにどうするか（改善）について考えるための用紙です。
- 「援助の目的」には、記録用紙1の「Ⅱ. 援助の目的（看護師に聞いた援助の目的）」で記載した看護師に確認した実践・援助の目的とは別に、学生が改めて考えて自分なりの言葉で記載します。その際、記録用紙1、2に記載した内容を活用します。
- 学生自身が「援助の目的」を明確にすることが難しい場合は、いったん開けておいて、その先の「行った看護実践・援助の内容と効果のアセスメント」の項目を記載してみると、「援助の目的」が明確になることがあります。
- 「援助の影響」では、看護師が行った実践・援助の結果、対象者にどのような影響があったか、実践・援助が効果的であったか、もっとよくできるとしたら何ができるかを検討します。なぜそう考えるかについての根拠とともに記載します。
- 記録用紙3が全体的に記載できたら「援助の目的」から「実践の改善」までに一貫性があるかどうかを確認します。

おわりに

初めにも述べましたが、教育機関によって紙上事例演習・病院見学実習・面接授業の実施方法や日程が異なることも考慮し、通底する重要な要素を抽出しています。この内容を手掛かりとして、各教育機関の状況や学習目標に合わせて、改変、再構成して活用してください。

病院見学実習 看護師が行う看護実践場面についてのレポート

〔 〕看護学（論）

学籍番号

学生氏名

I. 見学した看護実践場面	
II. 援助の目的（看護師に聞いた援助の目的）	
III. 看護師のかかわり （看護師が対象者とどのようにかかわっているか。言動や表情に注意し事実を具体的に記入する。学生自身の考えやアセスメントしたことは記入しない。）	IV. 対象者の様子 （援助を受けた対象者にどのような様子がみられたか。言動や表情に注意し事実を具体的に記入する。反応がない場合は反応がないことも記入する。学生自身の考えやアセスメントは記入しない。）
V. 場面の見学を通して気づいたこと、疑問に思ったこと、考えたこと （場面を通して、気づいたこと、考えたことなどを自由に記載する。）	

この記録用紙の意図

- ・ 見学する視点が、看護師や患者に偏らないように2段（Ⅲ. Ⅳ）の構成にしました。
- ・ 見学するときの視点の注意事項を別途記載しています。
- ・ 場面の見学を通して気づいたこととして学生は第一印象を記録し、リフレクションに活用します。
- ・ 記録内容に対する学生への教育については別途記載しています。

病院見学実習 対象者を理解するためのワークシート

〔 〕 看護学（論）

学籍番号

学生氏名

年齢	性別	男	女
病名/既往歴/現病歴			
看護の方向性（看護の方針、看護目標、看護問題とその問題への対応方法など） ※看護師に質問して確認する			
日常生活行動の状況（食事、排泄、清潔、活動、睡眠など）			
認知機能や理解力			
家族や社会との関わり（家族関係、社会における役割、サポート体制、社会資源など）			
その他			

複数の患者や利用者を担当したときには、対象者1人につき1枚このシートに記入してください。

病院見学実習 看護実践場面のアセスメントシート

〔 〕 看護学（論）

学籍番号

学生氏名

看護実践の目的（この看護実践・援助はなぜ必要だったとあなたは考えるか。本来この援助はどのような目的で行われるのか。）
対象への看護実践の結果（対象者の反応はどうだったかをもとに、ケアが効果的だったのかを考える。）
<p>行った看護実践・援助の内容と結果のアセスメント（援助の妥当性 / 対象者にとって効果的だったのか）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の準備状況（行われることについて理解していたか / 参加する意思があったか / 適切なタイミングであったか / 治療や療養の妨げになっていないか / 実施するうえで障害になる要因はないか） 2. 看護実践の方法（対象者の状況に応じた方法で行われたか / 対象者の意思は尊重されたか / 安全・安楽な方法で行われたか / 対象者の自立を妨げていないか） 3. コミュニケーション（言語的・非言語的コミュニケーションのどちらも対象者に合った方法で意思疎通が行われたか） 4. 対象者の強みの活用（対象者の持っている力、家族や友人などの人的資源や社会的資源は活用されたか） 5. その他（対象者の倫理や尊厳は守られたか / プライバシーは確保されたか / 所要時間 / 人的・物的資源の活用など）

上記のアセスメントをもとに援助場面を振り返り、あなたならどのように行動するか記載してください。
（見直しが必要な場合は、どのように修正するか、また、なぜそのように考えたのか）

援助のアセスメントをして、必要だと気付いた情報、また自分に不足している知識があれば記載してください。

病院見学実習 看護師が行う看護実践場面についてのレポート

母性看護学

学籍番号

学生氏名

I. 見学した看護実践場面	
II. 援助の目的（看護師に聞いた援助の目的）	
III. 看護師のかかわり （看護師が対象者とどのようにかかわっているか。言動や表情に注意し事実を具体的に記入する。あなた自身の考えやアセスメントは記入しない）	IV. 対象の様子 （援助を受けて、どのような様子がみられたか。言動や表情に注意し事実を具体的に記入する。反応がない場合は反応がないことも記入する。あなた自身の考えやアセスメントは記入しない）
V. 場面の見学を通して気づいたこと、疑問に思ったこと、考えたこと （場面を通して、気づいたこと、考えたことなどを自由に記載する。）	

この記録用紙の意図

- ・ 見学する視点が、看護師や患者に偏らないように2段（Ⅲ、Ⅳ）の構成にしました。
- ・ 見学するときの視点の注意事項を別途記載しています。
- ・ 場面の見学を通して気づいたこととして学生は第一印象を記録し、リフレクションに活用します。
- ・ 記録内容に対する学生への教育については別途記載しています。

病院見学実習 対象者を理解するためのワークシート

母性看護学（論）

学籍番号

学生氏名

年齢	性別
妊娠・分娩歴 () 妊・() 産	
妊娠週数 () 週 () 日 産褥 () 日目 日齢 () 日	
合併症、既往歴	
妊娠経過（切迫早産の有無、胎児の発育は順調か、など）	
分娩経過（週数、分娩様式、分娩所要時間、産科処置、出血量、など）	
産褥経過（進行性変化、退行性変化、など）	
新生児の経過（アプガースコア、出生時体重と体重の経過、哺乳力、黄疸の有無、など）	
看護の方向性（例えば、看護の方針、看護目標、看護問題とその問題への対応方法など） ※看護師に質問して確認する	
日常生活行動の状況（食事、排泄、清潔、活動、睡眠など）	
認知機能や理解力	
家族や社会とのかかわり（家族関係、社会における役割、産後のサポート体制、社会資源など） ※社会資源の例（母子保健センター、育児支援センターなど）	
その他	

複数名を担当したときには、対象1人につき1枚このシートに記入してください。

病院見学実習 看護実践場面のアセスメントシート

母性看護学

学籍番号

学生氏名

看護実践の目的（この看護実践はなぜ必要だったとあなたは考えるか。本来この援助はどのような目的で行われるのか。）

対象への看護実践の影響（対象の反応をもとに、看護実践が効果的だったのかを考える。）

行った看護実践の内容と結果のアセスメント（援助の妥当性 / 対象にとって効果的だったのか）

1. 対象者の準備状況（行われることについて理解していたか / 参加する意思があったか / 適切なタイミングであったか / 治療や療養の妨げになっていないか / 実施するうえで障害になる要因はないか）
2. 看護実践の方法（対象者の状況に応じた方法で行われたか / 対象者の意思は尊重されたか / 安全・安楽な方法で行われたか / 対象者の自立を妨げていないか）
3. コミュニケーション（言語的・非言語的コミュニケーションのどちらも対象者にあつた方法で意思疎通が行われたか）
4. 対象の強みの活用（本人の思いと持っている力、家族や友人などの人的資源や社会的資源は活用されたか）
5. その他（対象者の倫理や尊厳は守られたか / プライバシーは確保されたか / 所要時間 / 人的・物的資源の活用など）

上記のアセスメントをもとに看護実践場面を振り返り、あなたならどのように行動するか記載してください。（見直しが必要な場合は、どのように修正するか、また、なぜそのように考えたのか）

病院見学実習

成人・老年看護学

[患者情報]

年齢 60代後半	性別 女性
病名/既往歴/現病歴 6年前より、II型糖尿病、経口薬で血糖コントロールを行っていた。 今年4月初旬から血糖コントロール不良。空腹時血糖値 180mg/dL 台 75g 経口糖負荷試験 2時間値 400mg/dL、HbA1c9.5%。精密検査のため入院。	
看護の方向性（例えば、看護の方針、看護目標、看護問題など） インスリン療法導入のため入院。自分でインスリン注射を行い血糖のコントロールができるようになる。	

[この時間の受け持ち看護師の記録]

時間	看護記録
8-16	本日、自己血糖測定方法について実演しながら説明した。 S：「はい、よくわかりました。」 O：血糖測定方法の説明に対して、うなずきながら話を聞いている。 特に質問はなし。 A：初回説明時の受け入れは良好。 自己血糖測定の導入は可能と判断できる。 P：明日から看護師立会いのもと、自己血糖測定を開始し、退院までに手技を確立する。

[看護師の申し送りメモ]

【17日日勤の方へ】 16日、パンフレットを使用して口頭で説明しながら実施しました。よく理解できていましたので、17日昼より看護師見守りでご本人に実施してもらってください。 パンフレットを渡してあるので、時間の空いた時に読み直してもらおうようにお願いしています。
--

病院見学実習 看護師が行う看護実践場面についてのレポート

成人・老年看護学

学籍番号

学生氏名

<p>I. 見学した看護実践場面</p> <p>教育のための患者情報を得るためのコミュニケーション</p>	
<p>II. 援助の目的（看護師に聞いた援助の目的）</p> <p>インスリン療法の教育計画のための情報を収集する</p>	
<p>III. 看護師のかかわり</p> <p>（看護師が対象者とどのようにかかわっているか。言動や表情に注意し事実を具体的に記入する。学生自身の考えやアセスメントしたことは記入しない。）</p> <p>挨拶の後、自己紹介をした。</p> <p>看護師がベッドサイドにかがんで、患者と目線を合わせた。</p> <p>看護師が書類を確認して内容を説明した。</p> <p>患者が「これ（テーブルの上に置いてあった箱）何？看護師の忘れ物かしら」と聞いたことに対して、血糖測定器であることを説明した。</p> <p>「そうですね、毎日は大変ですね。」</p> <p>「娘さんにお手伝いしていただけないでしょうか。」</p> <p>「なるほど、娘さんは忙しいんですね。山下さんがご自分でやらないといけないんですね。」</p> <p>「そうですね、一緒に頑張っていきましょうね。」</p>	<p>IV. 対象の様子</p> <p>（援助を受けた対象者にどのような様子がみられたか。言動や表情に注意し事実を具体的に記入する。反応がない場合は反応がないことも記入する。学生自身の考えやアセスメントは記入しない。）</p> <p>眼鏡をおいてきて、書類が読めないと訴えた。</p> <p>書類に署名するときに手が震えていた。</p> <p>「あ、そういえば、注射が必要だと言われた。」</p> <p>血糖測定器を注射器と勘違いしていた。</p> <p>「新しいことが覚えられない。これでも野菜を食べるようにしていた、食べ過ぎないように気を付けていた。いろいろ頑張ったけど全然よくなるわないの。」</p> <p>不満そうな表情で、強い口調。</p> <p>「そんなに良くならなくてもいい。今までどおりにしたい。」</p> <p>「毎日注射はいやなものよ。血が出たら慌てちゃう。」</p> <p>いやそうな表情。</p> <p>「娘は忙しいの、仕事をしているし、子供もいるからね。病院にもよく来てくれるけど、もう来なくていいって言ってるのよ。迷惑になっちゃうでしょ。」</p> <p>「お医者さんがやれっていうからしょうがない。言うことをきくしか……」</p>
<p>V. 場面の見学を通して気づいたこと、疑問に思ったこと、考えたこと</p> <p>（場面を通して、気づいたこと、考えたことなどを自由に記載する）</p> <p>看護師は患者が強い口調で話しても、穏やかにまずは患者の発言を受け入れるように話していた。</p> <p>なげやりになっている患者に対して、一緒に頑張ろうと寄り添う気持ちを表現していた。</p> <p>文字を書く時手が震えていたし、文字も読みにくそうであるが、インスリンの注射は自立してできるのか。娘には迷惑をかけたくないと言っていたが、娘はどう思っているのだろうか。</p>	

* この記録用紙の意図

- ・ 見学する視点が、看護師や患者に偏らないように2段（Ⅲ、Ⅳ）の構成にしました。
- ・ 見学するときの視点の注意事項を別途記載しています。
- ・ 場面の見学を通して気づいたこととして学生は第一印象を記録し、リフレクションに活用します。
- ・ 記録内容に対する学生への教育については別途記載しています。

病院見学実習 対象者を理解するためのワークシート

成人・老年看護学

学籍番号

学生氏名

年齢	60代後半	性別	女性
病名/既往歴/現病歴 6年前より、Ⅱ型糖尿病、経口薬で血糖コントロールを行っていた。 今年4月初旬から血糖コントロール不良。空腹時血糖値 180mg/dL 台 75g 経口糖負荷試験 2時間値 400mg/dL、HbA1c9.5%。精密検査のため入院。			
看護の方向性（看護の方針、看護目標、看護問題とその問題への対応方法など） インスリン療法導入のため入院。自分でインスリン注射を行い血糖のコントロールができるようになる。			
日常生活行動の状況（食事、排泄、清潔、活動、睡眠など） すべて自立。入院前の食行動は食べ過ぎないように気を付けている。野菜を食べるようにしている。 それ以外の食行動に関する情報なし。排泄に関する情報なし。睡眠に関する情報なし。			
認知機能や理解力 物忘れがある。新しいことが覚えられない。 血糖測定器を「看護師の忘れ物」ととらえていた。眼鏡を自宅に忘れてくる。			
家族や社会との関わり（家族関係、社会における役割、サポート体制、社会資源など） 娘がおりキーパーソン。娘とは別居。娘は仕事をしており忙しく、迷惑をかけたくないと話す。 町内会とのつながりがある。サポート体制、社会資源については情報なし。			
その他 手の震えがある。 眼鏡がないと手紙の文字が見えない。 普通の音量での会話が可能。 「言うことをきくしかない」という発言がある。 「いろいろ頑張ってきたけどよくなるしない」 毎日注射をするのは嫌だ。血が出たら慌ててしまう。 そんなに良くならなくていい。今までどおりにしたい。			

複数の患者や利用者を担当したときには、対象者1人につき1枚このシートに記入してください。

病院見学実習 看護実践場面のアセスメントシート

成人・老年看護学

学籍番号

学生氏名

看護実践の目的（この看護実践・援助はなぜ必要だったとあなたは考えるか。本来この援助はどのような目的で行われるべきなのか）

看護師が患者〇氏のインスリン療法の教育計画のために必要な情報を収集する。（見学した看護師の発言による）

1. 看護師が患者のインスリン療法に対する理解度を確認する（学生〇〇が追記した考え）
2. インスリン注射に対する患者の否定的な発言が減り、前向きに取り組んでみようと思える。（学生〇〇が追記した考え）

対象への看護実践の結果（対象者の反応はどうだったかをもとに、ケアが効果的だったのかを考える。）

患者の思いを引き出せていた。患者が自分の思いを発言できていた。
患者のインスリン自己注射の指導において看護師として注意すべきことが見いだせていた。

行った看護実践・援助の内容と結果のアセスメント（援助の妥当性 / 対象者にとって効果的だったのか）

1. 対象の準備状況（行われることについて理解していたか / 参加する意思があったか / 適切なタイミングであったか / 治療や療養の妨げになっていないか / 実施するうえで障害になる要因はないか）

患者の準備状況に問題はなかった。インスリン注射が必要になることは聞いていたため、心の準備は整っていた。さらにこれから患者が自己注射をすることができるようになるための教育を、具体的に進めるために必要な発言を引き出せていた。さらにそのための問題点が明確化された。

2. 看護実践の方法（対象者の状況に応じた方法で行われたか / 対象者の意思は尊重されたか / 安全・安楽な方法で行われたか / 対象者の自立を妨げていないか）

看護師の援助の方法に問題はなかった。根拠は「3. コミュニケーション」に記入。

3. コミュニケーション（言語的・非言語的コミュニケーションのどちらも対象者に合った方法で意思疎通が行われたか）

看護師と患者〇氏のコミュニケーションの方法に問題はなかった。
インスリン療法についての話をするための時間の確保や場の設定ができていた。
看護師が目線を合わせて患者に傾聴的なかかわりができていたので様々な患者の反応を引き出した。

4. 対象者の強みの活用（対象者の持っている力、家族や友人などの人的資源や社会的資源は活用されたか）

会話を通して対象の持つ強み（娘の存在、本人の治療に対する言動）が明らかになったことで、今後のインスリン治療の教育に活用できる。

5. その他（対象者の倫理や尊厳は守られたか / プライバシーは確保されたか / 所要時間 / 人的・物的資源の活用など）

治療についての話をするための時間やプライバシーの確保できる場の設定はできていた。

上記のアセスメントをもとに援助場面を振り返り、あなたならどのように行動するか記載してください。（見直しが必要な場合は、どのように修正するか、また、なぜそのように考えたのか）

インスリン療法の教育計画のための情報は収集でき、患者の理解度を確認できた。患者の治療への否定的な発言に対する共感はできているが、患者のあきらめの発言で終わっていた。不満気に訴えた内容について掘り下げて深く聞くことにより、前向きな発言につなげていくことができると考えられる。

援助のアセスメントをして、必要だと気付いた情報、また自分に不足している知識があれば記載してください。

インスリン注射が必要だと知った時の様子がどうだったか。これまで患者が糖尿病とともにどのように頑張ってきたかや糖尿病との向き合い方。セルフマネジメントの状況（血糖値のコントロール状況、内服薬の服薬状況）。患者の健康管理能力。教育場面において患者が受け止めた内容。娘を含めた家族についての情報。視力（パンフレットが読めるかなど）。手の震えに関する既往歴。物忘れの理由が、加齢によるものか、認知機能の低下によるものか。治療に前向きになれない患者に説明するときのコミュニケーション技術。

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業
「看護師養成所2年課程（通信制）の入学要件見直しにかかる調査研究（23CA2003）」

研究代表者 奥裕美

研究分担者 小山田恭子 三浦友理子 相澤恵子

コメンター 金川治美 江崎喜江 鈴木葉子

教材作成協力 中野真紀 本門和枝 山岸曜子

研究協力 全国通信制看護学校協議会